
何処にでも在るようなそんな唄

--

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

何処にでも在るようなそんな囁

【Nコード】

N4373T

【作者名】

—
—

【あらすじ】

何処にでもいるような少年が事故で死んで異世界に逝く。そんな囁です。例によって例のごとくチート（にする予定）です。そう言う物語が苦手な方、稚拙な文が許せない方はご注意ください

終わって始まる（前書き）

初めましてー ーです。

誤字脱字がございましたら報告してくれると助かります

終わって始まる

異世界転生

そこら辺の本棚を少し調べればすぐに見つかるテーマの一つだろうと思う

だが、しかし。それは空想のオハナシであり実際にはないものだ。リアルで異世界に転生などできるはずがない。それがこの世の常識であったはずだ。

ああ、空気を読める人でもそうでない人でもここまで言えば分かってくれると思う。

そう、僕は今、

異世界とやらに逝ってしまったらしい。

某月某日、僕は死んだ。

理由は、まあ、これもよく在るように事故死。

たまたま運転手が居眠りしていて、たまたま運転していた車が4トントラックで、たまたまその時信号機は青で、たまたまそこを僕が歩いていて、たまたまその時僕は歩きながら本を読むという暴挙をしていた。

その結果がこれだ。

まったくもって偶然にもほどがある。

たぶん、僕はバラバラになって死んだだろうと思う。

まあ、そこまでは別にいいんだ。

そこまでは許容範囲である。

たいして、面白い人生でもなかったし、友人もいないし、両親も死んでいる。兄弟なんかもない。

どっかの親族に引き取られたのはいいけど、結局その人たちがくれたのは学費と食事と俺がいた狭い部屋だけ。

居場所のない場所に未練を残せるはずもない。
バイトで稼いで本を買う事しか生き甲斐がなかった気がするし。．．
．．ああ、それが出来ないとすれば未練はあることになるな。まあ、
別にいいだろう。
問題はこの次なんだから。

白

その色だけが支配していた。
いや、正確にはそれだけじゃない。
目の前には『ヒト』がいたから。
ただ、何なのだろうこの『ヒト』は。
居るようで居ないような。在るようで無いような。
まるで、漠然とした「イメージ」のような．．．
いまのカギカッコは何だ？

僕の独白であるはずのここには「『』しか存在しないはず．．．か
？」

「ッ!？」

驚いた。

目の前にいる漠然としたイメージが僕に話しかけて．．．いや、僕の
考えを読んでることに。

「初めまして。もしかしたら久しぶりかもね」

頭が回転しない。

「まあ、そんなことはどうでもいいか」
考えることが出来ない

「こんな場所にいる時点で私がどういう存在なのか解るだろうけど、
一応自己紹介をしよう」

思考が追い付かない

「僕は」

取り敢えず。

「神だよ」

考えるのはいったん止めた

終わって始まる(後書き)

この物語はフィクションです

理不尽の納得

「起きろ」

と聞こえた瞬間目が覚めた。

いや、この表現は正しくはないんだろう。

「言葉が悪かったかな？まあ、でも落ち着きはしたでしょ？」

ああ、なるほど。この『カミサマの』せいか。この変な違和感は。

「最初から『落ち着け』と言っておくべきだったな。すまなかった」

きつと固まった、そんでもって思考停止した俺を見て気絶したとで

も思ったのだろう。

「気分はどうだい？」

大丈夫だ、（問題ないとは続けない）納得したおかげで落ち着いて

きたよ

「そうかい

だったら話を始めようか」

？

話ってなんだ？

「俺がただの人を呼んだんだ。何かあるかは大体わかるだろう？」

……いや、わからない

ていうか、さっきまで思考が停止していた人間になにを求めているん

だよ

しかも話し方もおかしいし。

「それはお前がきちんとしたイメージをしなかったからだ。」

と、言うこと？

「神つてのは人の概念イメージから出来たものなんだよ。宗教とかではよく

神から授かった〜とかいうだろ？あれはむしろ逆さ。神つて言うの

はつまりは人から作られるものだからね」

…なんとなくわかった。

けど、じゃあ最初、いやこの場合は原初か？そういった命はどこか

ら来るんだよ

「世界さ」

世界？

「ああ、世界だ。君は知らないのかい？世界つてのは生きているんだよ。どんな星にも寿命はあるし、どんな宇宙にも死は訪れる。人間だって生まれ変わるように、世界だって生まれ変わるもんなんだ。」

「ときには病気にもなるんだよ、と神は言った

しかし、信じられないな…」

なあ、病気つてどんなヤツなんだ？

「君が住んでいた地球なら大抵の災害は病気さ。」

「そろそろ話を始めてもいいかな？」

まだ聞きたいことはあるんだがな…」

「そこらへんは我慢しておいて。正直メンドイし」

さいですか

「さいですよ。じゃあ、本題に入ろうか」

「君は異世界に転生してもらおう」

「は？」

久しぶりの発声はたったの一字（この場合二文字か？）だった

「本来ならここで区切るべきなんだけどね。ちょっと時間が押しているからさっさと説明に入るよ」

と、神さんは変な言い方をした

「それについては後で矛盾なく話すよ。」

さっきも言ったけれど君はこの世界の輪廻から外れて、異世界へと行ってもらう。いや、この場合は逝って、かな」

な、なんでだ？

「世界の『暇つぶし』のためさ」

ひ、暇つぶし…？

「世界は生きている、って言ったよね？当然、世界にも意思はあるんだ。」

そして、感情もまた必然として存在する。」

「世界には寿命がある、とも言ったよね？その長さがとてつもなく長いのは君たちもよくわかってるはずだよ。」

そしてまた、当然のように世界は時間を持て余す」

「だから、君たちの産物であり、世界の子供でもある僕が、世界の暇つぶしを考えなくちゃいけなくなっただんだ。」
な、なんで

「『なんで俺が』かな？それは、『偶然』としか言いようがないな偶然、日本でターゲットを探していた時に、偶然、トラックに撥ねられて死んじゃった人間がいて、偶然、その人間には世界に大した未練もなく、偶然、それなりに若い少年だったからさ」

ぐ、偶然？

「理不尽だと思っかい？しょうがないよ偶然だもん。さつさと諦めてよ」

…一つ、質問だ

「何だい？」

まだ、矛盾のない説明を聞いてないぞ

「ふむ。まあ、これを見て」

ボン、と小さな音を出て神の右手から、本が出た

…それは？

「本だよ。君の物語を綴るための本さ。これには君のこれからを書いていくんだ。」

だけど、いかんせん世界は短気だね。早く見せろとうるさいんだよ。だから、さつさと書いて見せないといけないんだ」

だから、時間が押しているって？

だったら、さつきのところで区切ればいいじゃないか

「あまり短いとまた騒ぎ出すからね。できるだけ長くしておきたいんだよ」

さいで…

「ああ、けどどこら辺で少し区切ろうかな。」

そりゃまた、なんで？

「次も説明だから。あまり詰め込んで説明するとみにくいでしょう？だから後は次回予告するだけさ」

てか、さっきからずいぶんとメタな会話だな

「大丈夫だよ僕は神だからね。このくらい許される。」

まあ、取り敢えず。納得してくれたかな？

…ああ、納得した

異世界に逝ってやろうじゃないか

「オーケー」

じゃあ、今回はこの本の説明をあと少しと君が行く世界とその他諸々を説明しよう」

「とりあえずは、次回をお楽しみに、だね」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4373t/>

何処にでも在るようなそんな噺

2011年10月9日03時54分発行